

『トイレで倒れていた父への緊急対応』

FM14期修了 金津 ゆかり

具体的内容

たまたま実家に寄った際の出来事。

家の中に入ると、トイレのドアが半開きになっていた。

異変を感じ駆け付けると、

トイレの中で、父（70歳）が倒れていた。

意識はなく、呼びかけにも反応はなし。

慌てて、手元あったキッズ&トラウマキットと災害対策
キットからレメディーを選んだ。

レメディ選択と根拠

まず自分自身に

Acon.200c (キッズ&トラウマキットから)

次に父へ

Acon.200c (キッズ&トラウマキットから)

Carb-v.30c (災害対策キットから)

Acon.

ショック・パニックに陥った際にとることで、冷静になり、落ち着いて行動できるようになると講義で習ったため選択。

Carb-
v.

蘇生と生き返りのレメディであること、
以前の寅子先生がインドの空港で倒れた方に与えたレメディの一つで、その方の意識が戻ったという動画を見た記憶があったため選択。

経過

レメディーをとると、

1分くらいで声かけに反応し、意識が少しずつ戻ってきた。

左腕を動かせないと訴え、自力では起き上がれない状態。

レメディ選択②と根拠

Ruta.30c (災害対策キットから)

Rhus-t.30c (災害対策キットから)

Coff.200c (キッズ&トラウマキットから)

Lach.200c (キッズ&トラウマキットから)

倒れたときに骨折をしたかもしれない可能性を考えて

Ruta.

講義にて「骨や腱の損傷」を参考に。

Rhus-

t.

講義にて「関節や筋違い」を参考に。

脳血管の損傷と心臓の影響を考えて

Coff.

講義にて「脳神経に作用」、マテリアメディカ「神経」
「循環」を参考に。

Lach.

講義にて、「心臓・循環の問題」「左側の問題」を参考に。

経過

- ・ 10分程で、意識が少しずつはっきりし、ゆっくりと自力で起き上がった。座椅子に座って、話ができるまでに回復。
- ・ 左半身の脱力感、しゃっくりが止まらない症状があったため、病院受診は必要と判断。併せて担当ホメオパスに緊急の相談会をお願いし、他のレメディも追加。
- ・ 病院受診をし、頭部CT検査の結果、心配していた脳血管疾患や心疾患などで、入院や手術の緊急性はなく、大事に至らず帰宅。
- ・ その後、1週間程度で以前の状態に戻り、農作業ができるまでに回復した。

考察

- ・ファミリーホメオパスコースで、キッズ&トラウマキット を使いこなさない！という思いがあり、手元にキッズ&トラウマキット と災害対策キットを所持していたため、とっさの出来事に対応できた。
- ・200 c というポテンシーの高いレメディーが肉体により作用したことも考えられると感じた。
- ・ファミホメの講義や寅子先生の講演、他のホメオパスの先生方の講座などからの学びにより、次々とレメディーを選択できたことが、早期の回復につながったと考えている。

ありがとうございました

